

3・20渋谷へ!

全学連(織田陽介委員長)書記局通信

2011年2月16日

3

Tel 050-3036-6464

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/



【1】3・20にむけ、入試情宣進む! (2・13御茶ノ水)

エジプト革命の衝撃が日本の青年・学生の意識を激しく揺り動かす中、3・20デモに向けた全学連の街宣に圧倒的な注目が集まっている。13日は御茶ノ水駅頭での街宣が大成功し、明治大学の受験生を始め次々と賛同署名が集まった。

「エジプトでは青年・学生を先頭に巨万の民衆が立ち上がり、30年近く続いた軍事独裁政権をぶっ飛ばした。日本でこういう闘いを開始するのが3・20デモだ!」「青年・学生は反戦デモの先頭に立とう!菅政権を打倒しよう!」われわれの訴えに多くの受験生が足を止め、街宣隊との間で次々と討論が始まる。

「エジプトは凄いですね!あの数!」「日本でもやりたいですね!」「3月20日渋谷デモに行きます!」 エジプト革命の衝撃が連日報道される中、受験生の反応も例年とは画然と違っている。中には「討論よりも早くデモがしたい」という人もいるほどだ。今や青年・学生は圧倒的に行動方針を求めている。3・20渋谷反戦デモの呼びかけが、今の情勢にぴったり噛み合っている。

また、改めて法大闘争が圧倒的な獲得力を発揮している。

法大当局がくり返してきた闘う学生への不当処分や情宣禁止仮処分に対し、多くの受験生が「大学がこんなことをするなんて信じられない!」と怒りをあらわにし、署名に応じてくれている。

こうした受験生一人ひとりの怒りと決起の中に、エジプト革命に続く闘いが日本で爆発する現実性がある! 3・20デモの爆発に向け、ガンガン街頭に登場し、青年・学生の組織化をどんどん推し進めよう!(首都圏学生・N)



【2】2・11～12 学寮交流会報告

3・20に向け京都大学熊野寮でも、組織戦を開始しています。2・11-12、京都大学熊野寮での学寮交流会の地平を踏まえて、全国自治寮生は3・20へ集まろう！

自治寮とは学生自身の手で、どんな学生にも学ぶ権利を保障してきた学生自治の砦です。今、大恐慌が戦争と失業を生み出す中で、大学資本や国家権力は、この自治寮を解体する攻撃をかけてきています。

富山大学新樹寮では、自治を實力で貫き通している仲井君が、大学資本の手によって、この4月にも寮からたたき出されようとしています。絶対に許せない！！ また、京都大学では「学寮型大学院」なるものが大学当局によって提起され、大学を資本に従属させ、学生を戦争に動員する拠点へと寮を変質させる攻撃が始まっています。

自らの延命のためには、未来を作り出す場所である大学すらも民営化し、戦争の道具とみなす国家権力と大学資本。自治寮解体の攻撃は大学における戦争・民営化の現実そのものであり、だからこそ自治寮をめぐる攻防は学生の怒りをひとつに束ねることができる圧倒的展望に満ち満ちています。

にもかかわらず、これまで全国の自治寮を結集させていた全寮連（日本共産党が指導してきた。学寮交流会とは別組織）は、新自由主義攻撃が吹き荒れる06年に、なんと自らその解散を宣言。この許しがたい裏切りと屈服が、現在も進行する全国学寮への改修・民営化・自治破壊の攻撃をエスカレートさせてきました。

その一方で、私たちの所属する学寮交流会は、東北大学・有朋寮の廃寮攻撃と闘いぬいた地平から、自治寮死守の広範なネットワークを作り上げてきました。とりわけこの一年では新樹寮への改修・自治破壊との対決を軸に、全国で30を超える自治寮と交流を結び、組織拡大への巨大な橋頭堡を築いてきました。

今回の学寮交流会では、この地平に踏まえ、「今こそ組織拡大を実現し、寮自治発展の行動するネットワークをつくらう」ということが確認されました。

自治寮が団結して行動したときに、大学を揺り動かすことができます。大学での戦争と民営化の現実も、自治寮が動けば変わる！ 交流会の議論でも「何もしなければ大学には悪い選択肢ともっと悪い選択肢しかない。新しい選択肢を自分達がつくっているんだ」という発言が全体を牽引しました。

さらに次回6月交流会への決定的な闘いとして、呼びかけ人の東北大学・石田真弓くんが3・20集会を熱烈に提起。何より、この時代に民営化と自治破壊に対決する自治寮の発展が重要であり、その決定的な闘いとして反戦がある。菅政権の新成長戦略の貫徹としての「学寮型大学院」による戦争動員の攻撃をうちやぶる、反戦闘争を爆発させよう。この提起に応じて、活発に討論がおこなわれました。とりわけ重要なことは、反戦闘争の中でこそ、時代と対決する自治寮生を膨大に生み出していく展望がある、ということ。エジプトの革命情勢も、その核心は最先頭で立ち上がる学生・青年の行動が生み出したものである、ということ。今、多くの学生・青年が「エジプトのように闘いたい」と考えています。こんな時代に私たち自治寮生こそがその最先頭でなくてどうしますか。今こそ、エジプトに続いて日本を根底から変革する3・20に自治寮生は先頭で結集しよう。反戦闘争の強大なうねりを、全国自治寮からまきおこそう！ 全国自治寮の大結集を実現するべく、さらなる組織戦へ！！

【3】3・20 闘争の爆発させ、エジプト革命に連帯しよう！



エジプトに続き巻き起こるデモ（アルジェリア）

（0）エジプトにおける「ムバラク辞任 - 軍全権掌握」

革命情勢はエジプト一国の枠をこえてさらに発展・激化していく。路線闘争と権力闘争になっていく。労働者・労働組合を基軸にした階級的潮流の総決起とそのもとへの全人民的結集、そして帝国主義足下における帝国主義打倒の闘いと結合の道の中にのみ勝利の展望はある。これから始まる激しい党派闘争を貫徹し、その闘いに帝国主義足下の闘いをもって断固応え、大恐慌下におけるプロレタリア革命貫徹の闘いを徹底的に推し進めていこう。



この怒りがムバラクを打倒した。
(2月10日カイロ)

* 11日のムバラクの「辞任」表明。軍の「最高評議会」が政権掌握。憲法を停止するかどうか、人民議会（国会）を解散するかどうかは不明。

* 根本的な問題が新自由主義政策の破産のもとでの大失業（+食糧危機）としてある以上、「民主化勢力」の軍との「協議・協力」の中に解決の展望はない。

* 米帝・オバマは、これまでムバラク政権を全面的に支え継続させてきたことを棚に上げ、「政権移行」に向けた過程に全面的に介入してくることは間違いない。核心点は、軍事基地国家としてのイスラエルを先兵とした中東石油支配の全面的な継続であり、アラブ人民・ムスリム人民の民族解放闘争がプロレタリア革命の重要な一貫として（プロレタリア革命そのものとして）爆発していくことへの恐怖だ。「次のエジプト政府はイスラエルとの協定を認識することが重要」（ギブス大統領補佐官）。逆にこのジグザグの方針変更は米帝の支配力低下の裏返しだ。

* エジプトの労働者人民の天を衝く怒りの爆発と大衆行動のエネルギーの解放。1月25日のデモ開始以来300人をこす死者を出しながらも実力的・内乱的に闘いを発展させてきた。

（1）プロレタリア世界革命への巨大な世界史的うねりが爆発している

* チュニジア蜂起は、青年労働者の渾身の決起がチュニジア労働運動を結合して一挙に、ベンアリ政権打倒（1/14）の闘いへと発展した。「チュニジア蜂起に続け」、これが北アフリカ・中東の労働者の合言葉になった。

* エジプトでは、1月25日からムバラク政権打倒の労働者人民の闘いが始まった。27日、ムバラク辞任、81年以来続く戒厳令の解除、最低賃金引き上げをかけるデモ隊と警察部隊が激突。デモ隊1万人のうち1000人が逮捕された。

* 連日の闘いは、2月1日、100万のデモとして爆発した。軍は、デモ隊に発砲しないと声明を出す。またムバラクは、ペテン的「9月辞任」を声明。これに対して、デモ隊は、断固、即時辞任を求めて闘う。2日、ムバラクは、ムバラク派を動員しデモ隊への反革命襲撃を挙行。エジプト情勢は革命と反革命の闘いが激しく激突している。この反動にうち勝ち、2月4日の金曜礼拝を経て、さらにタハリール広場に不屈に根拠地をすえて、ムバラク打倒闘争は、

激しく発展している。

（2）米帝・オバマは、この米帝の中東支配体制の崩壊（戦後世界支配体制の崩壊であり、石油支配の崩壊）に恐怖をつのらせている。

他方で、欧州帝もまた北アフリカの革命的激動に震撼している。それはムスリムを体制内の補完として使った支配の崩壊でもあり、プロレタリア革命への根底的恐怖になっている。したがってムバラク体制の本質的護持へとむかうのであり、それはエジプト、パレスチナ労働者階級人民との非和解的階級的激突を激化させる。まさに国際帝国主義との対決となり、国際労働者階級の闘いへと発展する以外にない。

* 重要なことは、1月30日、ムバラク政権打倒闘争の真ただ中で、既成の官製労組とは別の新たな労働組合のナショナルセンター、E F I U（エジプト独立労働組合連盟）が設立されたこと。

* 設立宣言文は「労働運動の闘いが現在の革命への道を切り開いた。だからこそ、エジプトの労働者は『官製』のナショナルセンターが労働者の代表として語ることを全面的に拒否するのだ。彼らは労働者の権利を否定してきた。そしてあの有名な1月27日の声明では、現在のあらゆるデモに反対することさえ表明している」と声明。労働運動が革命を切り開いている。そして、この前進によって、労働者自身の組合をつくる権利をもぎりとった。労働組合運動をとおした青年労働者を担い手とする「4月6日運動」こそ、この偉大な地平の土台となった。階級的労働運動の復権・発展が全世界の闘う人民の生々しい欲求となっている。ここにエジプト革命の核心がある。

そしてここに、「01年9・11」以来のすべての課題を革命的に突破していくカギがある。

（3）チュニジア蜂起 - エジプト革命は、大恐慌、大失業・戦争の激化によって爆発している。

* エジプト革命は、中東でのイスラエルを先兵とした米帝支配を根底から崩壊させている。同時にそれは、ムスリム（ムスリム同胞団）を使った支配体制をも突き崩し止揚していくという根底性をもっている。戦後世界体制を全面的に解体する労働者階級の根底的決起が開始されている。

* そもそもエジプト、チュニジアは「成長市場」のはずだった。だが、長い独裁体制への怒りの鬱積とともに、大



ムバラク打倒の歓喜の嵐（2月11日）

恐慌の嵐が襲い、「成長」を支えるはずの人口増は、同時に高失業を激化させた。今日のチュニジア、エジプト革命の原動力は、高失業、低賃金への青年の怒りだ。

* エジプトの総人口の3割が、15歳から29歳の若者であり、24歳以下の失業率は3割超。公務員の最低賃金は、月約300エジプトポンド(約4200円)。

* 現在、原油、素材、食料などの商品価格の国際相場が急騰している。その要因は、なによりも米帝の「金融緩和」で過剰マネーが商品相場に殺到していることによる。IMFの「世界経済見通し」で、世界経済の下ぶれリスクの要因に食料価格高騰をあげ、1・30閉幕のダボス会議で、仏帝・サルコジは「価格高騰が世界経済の足を引っ張るリスクだ」とわめいている。起きていることは過去のような食料価格上昇の延長ではない。食料価格は過去最高値となっている。国連食糧農業機関(FAO)発表の2011年1月の食料価格指数は前月比3・4%高の230・7ポイントの過去最高で、この間の上昇率は37・2%に達している。

* 「新興国」のインフレは貧困層の生活を直撃し、チュニジア、エジプト情勢をつくりだしている。まさに大恐慌が、決定的に生み出した情勢なのだ。

* さらに世界大恐慌の激化にもかかわらず、11年に世界経済は「成長軌道」に入るかのように喧伝されている。ブラジル、ロシア、インド、中国の4カ国のGDPが米の1

4兆ドルにせまる10兆ドルを超えたことによる。だが米帝からあふれたマネーは、BRICSの株式、債券のみならずトウモロコシ、小麦、石油、銅などに流れこんでいる。要するに、IT、住宅と続いたバブルとその崩壊が、次の新たなバブルとその崩壊となろうとしている。

中国スターリン主義内部からの「エジプト情勢」は不可避であるということへの確信。

* このことは大恐慌をさらに大爆発させる。同時に朝鮮侵略戦争の本格的策動をさらに強める。まさに大恐慌は、大失業と11・23の戦争情勢をうみだし、そしてついに革命情勢をうみだしている。世界大恐慌論と階級的労働運動路線を持っているのは、ただ我々のみだ。国際プロレタリアートの階級的団結、プロレタリア革命に向かって闘い準備していくことが、いよいよ勝利への道だ。



07年マハラでのストライキ

【4】3・20に向かったの核心問題

(1) エジプト革命に連帯の声を!

(2) エジプトに代えて、日本でも菅政権打倒を! 自民、民主、連合...そんなものではなく新しい運動をここから始めよう! 5000人集会へ!

(3) これからは「民主主義」のスローガンで革命を圧殺する攻撃が始まる。この社会を根本から変えよう、独裁を倒すだけでなく、失業や戦争をするような社会を根本から!

階級的労働運動が主導権を取ることができるのか否か。

(4) エジプト革命がすごいというだけではなく、日本でどう答えるのか、日本の労働者・学生は何をするのが重要。エジプト革命に連帯の意志を示そう。

(5) 中東・北アフリカの闘いの中身。独裁打倒とは社会を根本から変えたいという思いの表現だ。

* 失業と食料高騰。米帝がその危機を世界中に押しつけて延命してきた歴史。

* 食料高騰は、金融資本家が世界の食糧を2倍以上にして収奪し、延命してきた姿だ! 世界中で大失業と非正規職・就職難に突き落として延命してきた体制が今の社会だ。エジプトの民衆は本当の意味で同志だ。

* 何より石油支配は中東への絶え間ない戦争と、米帝と結託した独裁政権によって維持されてきた。「民主主義」の社会を維持するためにこそ独裁は必要だった。これが崩壊した。どうするのか。社会を根本から変えよう。

(6) 「イスラエルを軸に大規模な戦争が始まる可能性」これが戦争だ。絶対に許せない。

* これと連帯するのは、日米安保体制をぶっ飛ばす日本の安保沖縄闘争だ。

* 中東で戦争が開始されれば日本の参戦がやはり問題になる。絶対に許すな。

(7) 国際連帯と階級的労働運動

* 日本で立ちあがることこそが連帯だ。「日本だけで革命やっても」の逆。

* 階級的労働運動への確信。これを今度はエジプトに発信しよう。

* 菅政権をたおしてどうするのか。これに対する回答はエジプトだ。これからどういう社会を作るのが焦点。根本的に社会を変えよう。新しい運動を始めよう。

以上

